

平成27年度施策評価シート(平成26年度実施事業)

施策名	幼児教育	施策コード 5-1-1	作成主管課	学務課
			関係課	子ども福祉課 各幼稚園 友部公民館

総合計画後期基本計画の内容 ※H24.2月策定

政策体系	政策	第5章 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕
	小政策	1 次代を担う子どもを育みます
現況と課題	社会保障改革が進められる中、学校教育と保育の質の保障に向けた学校教育法及び児童福祉法上の位置づけなどについて検討が進められています。 子どもは未来をつくる力であり、特に幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎となる時期で、この時期における教育は極めて重要なものとなります。しかし、雇用基盤の変化や核家族化、地域コミュニティの希薄化などにより、家庭や地域における教育力の低下が指摘されています。しかしながら、東日本大震災は、地域における助け合いの精神、また、社会全体の希望である子どもの育成について、地域全体で支え合うことの大切さを再認識する機会となりました。 本市では、人・物・自然とふれあう体験活動、障がい児教育活動、親子で参加する活動、さらには、安全な施設整備などを実施し、幼児期における豊かな心の育成や一人ひとりの発達に対するきめ細かな対応に努めてきました。 今後は、国の制度再編の方向性を注視しながらも、ますます重要な役割を担う幼児教育について、社会性や心の教育、更には親の教育、安全の確保など、地域全体で望ましい教育環境を構築していく必要があります。	
施策目標	幼児期において、将来社会の一員として、より良く生きるための基礎を育むため、家庭や地域と連携を図りながら、生活や遊びなどの体験を通して、情緒的・知的な発達を支援するとともに、社会性を養える教育環境を構築します。	

1 総合計画進行管理

市民からの意見・反応等	・原発事故により園での放射線量を心配する声が寄せられた。 ・少子化、核家族化が進む中、保護者ニーズを踏まえ幼保一体化「こども園」について動向を注視する。
-------------	---

(1) 目標指標1

市民実感度指標		H23現状値	H24	H25	H26	H27	H28
子どもとのコミュニケーションがとれていると感じている保護者の割合	市民実感度	87.860	80.280	75.000	77.110		
	加重平均値	3.387	3.085	3.050	3.181		
地域における子どもの育成活動に参加した市民の割合	市民実感度	20.400	22.000	20.480	17.080		
	加重平均値	1.725	1.821	1.759	1.654		
当施策を重要と感じている市民の割合	重要度		97.220	88.150	86.150		
	加重平均値		3.653	3.393	3.354		

(2) 目標指標2

数値指標		単位	H23現状値	H24	H25	H26	H27	H28
高齢者との交流会活動数	目標値	回		2	3	4	5	5
	実績値	回	2	2	3	4		
	達成度	%		100.00	100.00	100.00		
	ベンチマーク							
高齢者との交流会参加人数	目標値	人		15	22	30	37	37
	実績値	人	15	15	22	72		
	達成度	%		100.00	100.00	240.00		
	ベンチマーク							
	目標値							
	実績値							
	達成度	%						
	ベンチマーク							
	目標値							
	実績値							
	達成度	%						
	ベンチマーク							

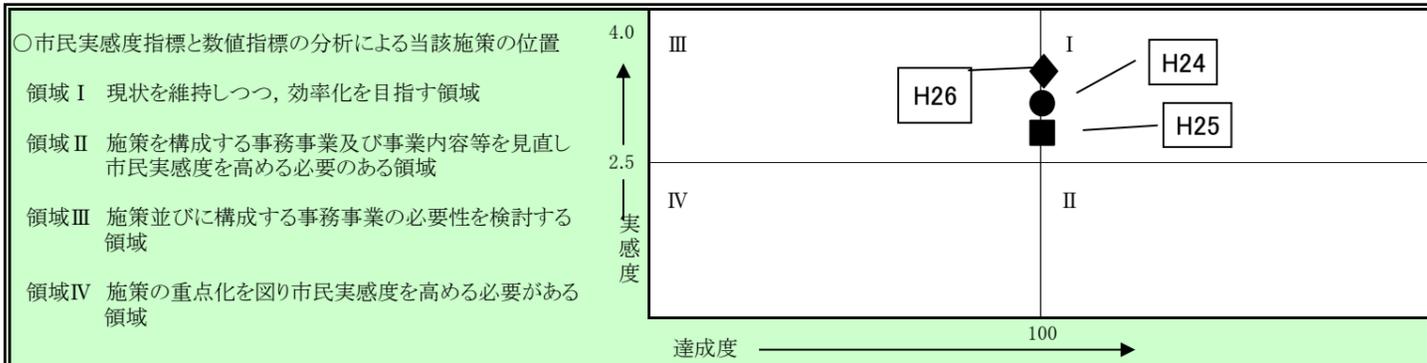
数値指標の考え方	指標設定の考え方	・家庭や地域における子どもとの交流活動が進められたか把握するため指標とした。 ・地域連携に関し、育成活動の実態を把握するため指標とした。
	目標値設定の考え方	地域連携における高齢者との交流活動を増加させることを目標とした。

2 施策の成果向上に向けての市民と行政との役割分担をどう考えるか

市民(地域・団体・事業所)が自助でやるべきこと。共助でやるべきこと。市と協働でやるべきこと。	
市民の役割	・地域と十分に連携を図り、子どもを守り育てていきます。
市がやるべきこと。県がやるべきこと。国がやるべきこと。	
行政の役割	・地域の特性や幼児の実態を踏まえ、自然体験、生活体験により道徳性の芽生えを培い、豊かな心と体の育成を図る。 ・幼児の健康管理と安全な保育環境を確保する。

3 平成26年度の取組状況

取組み内容と成果, 成果が得られた要因として考えられること。	
取組状況等	・幼児期における各種交流事業を通して、幼児たちの豊かな心の育成に貢献できた。 ・幼児の発達に合わせた指導計画により、一人ひとりに応じた指導を行うことができた。



指標を分析した結果施策目標は達成されたのか

達成度評価	施策目標は達成できた。今後も、地域や高齢者との事業を更に発展させて、次代を担う子どもを育てます。
-------	--

施策目標を達成するための手段(事務事業)の構成は妥当か

構成事務事業の適正性	現状での事務事業は妥当と考えるが、幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎となる大切な時期なので、既存事業の必要性を十分に考慮し必要であれば事業の廃止及び新規事業も展開していく。
------------	--

平成27年度以降に残る課題, その要因として考えられること。

残された課題	一人ひとりの子どもの成長に合わせた、きめ細かな対応に努める必要がある。 認定子ども園の開園に向けて、幼保連携、保育内容の検討及び交流を図っていくことが必要である。
--------	--

5 今後の方向性

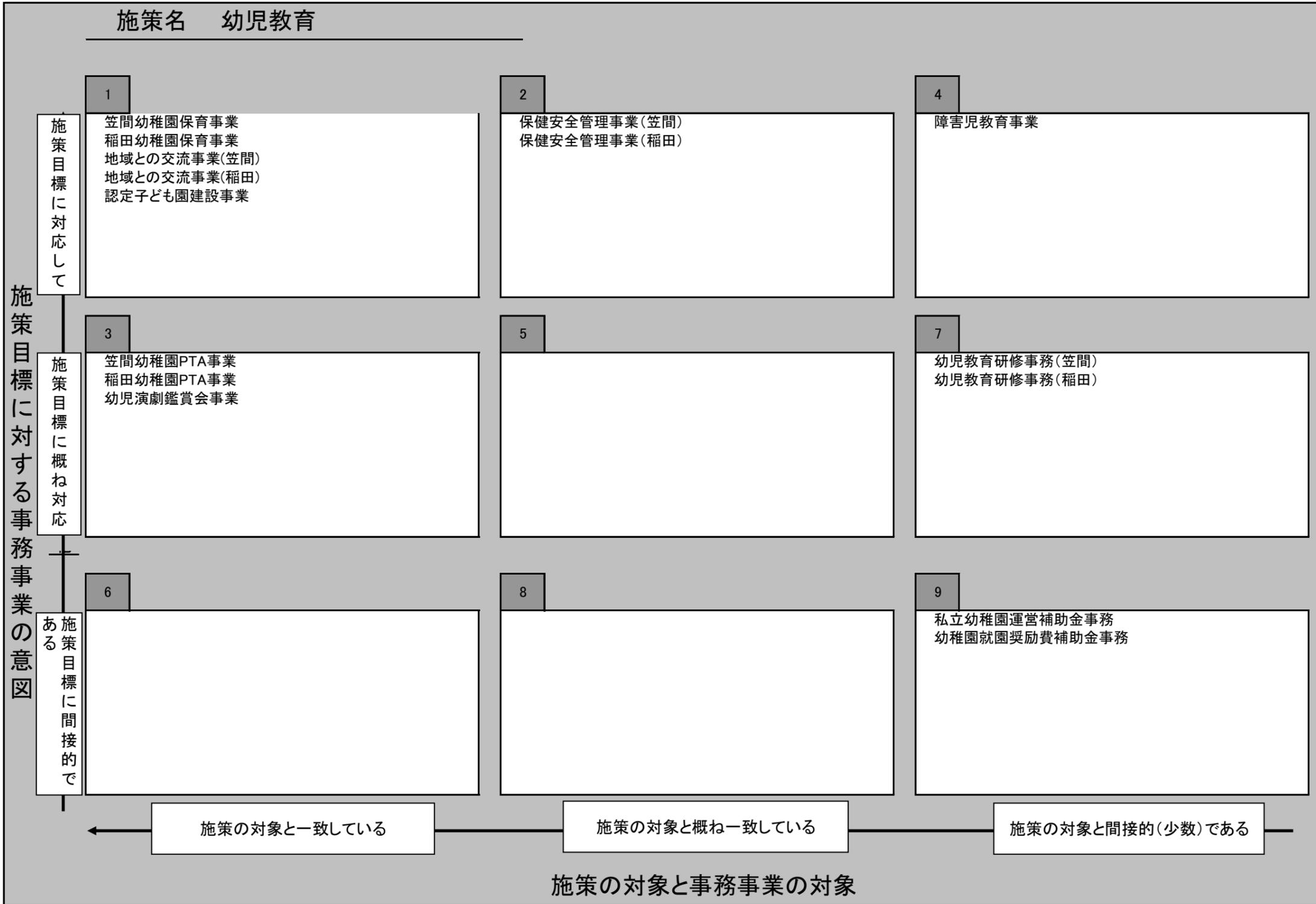
平成28年度に向けた施策方針	
取組方針	少子化・核家族化が進展する中、子どもが孤立しない環境づくりと合わせて、幼保連携した教育の場を創出する。 地域の人材や行事を積極的に活用し、心豊かな体験ができるように事業展開をする。 幼保一体化施設「認定子ども園」の開園に向けて、関係機関等との調整や保護者・地域に対して理解・協力が得られるように事業を進める。

シート3-1 施策構成事務事業貢献度評価

施策を構成する事務事業	事業内容	事務事業性質	成果					補助区分	事業費(千円)			貢献度評価	
			成果指標	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成24年度	平成25年度	平成26年度		
1	認定子ども園建設事業	公立保育所及び幼稚園の整備基本計画に基づき、てらぎき保育所と笠間幼稚園、いなだ保育所と稲田幼稚園を統合し、それぞれを公立の幼保連携型認定こども園として整備する。	建設・整備事業	公立認定子ども園	箇所	-	-	-	市単	32	-	20,520	4
2	私立幼稚園特別支援教育費補助金事務	私立幼稚園における障害を持った園児に対する特別支援教育の振興及び保護者の経済的負担の軽減を図るため、私立学校振興助成法に基づき、障害のある園児及び特別な教育的配慮を要する園児の教育を行う市内の幼稚園に対する補助として、障害児教育のために必要な教職員給与や教育研究管理費等の経費として障害児が1人の場合は196千円、2人の場合は392千円/人を補助する。	義務的事業	障害のある園児数	人	7	11	9	市単	4,508	4,116	3,332	義務的事業
3	私立幼稚園運営補助金事務	公立幼稚園は笠間地区に2園のみであり、友部地区及び岩間地区においては、私立幼稚園7園に幼児教育を委ねる状況にあり、幼児に適当な環境を与え、その心身の発達を助長するため私立幼稚園に対し、補助を行い、幼稚園の保育水準の向上を図る必要がある。	政策的事業	園児数	人	894	917	932	市単	3,031	3,017	3,032	12
4	幼稚園就園奨励費補助金事務	私立幼稚園と市立幼稚園の授業料は8千円程度の違いがあり、保育料の一部を補助し、幼稚園教育の普及充実及び保護者の経済的負担の軽減を図る。	政策的事業	補助対象園児数	人	830	860	929	国補助	86,533	92,908	116,398	12
5	笠間幼稚園保育事業	地域の特性や幼児の実態を踏まえ、身近な自然環境や様々な人とのかかわりを通して、幼児期における道徳性の芽生えを培い、豊かな心の育成を図る。	政策的事業	行事を通して幼児の成長が見られたと思う保護者の割合	%	82	84	88	市単	395	376	378	1
6	幼児教育研修事務(笠間)	心身ともに健康で心豊かな幼児の育成と、保育内容充実のため研修等に参加し、教師の資質向上を図る。	政策的事業	研修・研究会等延参加人数	人	28	38	38	市単	15	46	12	11
7	笠間幼稚園PTA事業	保護者と教師が連携、協力して幼児の健全な育成を図るための活動を行う。(家庭教育学級の開催3回)	政策的事業	家庭教育学級延参加人数	人	119	115	164	-	-	-	-	3
8	地域との交流事業(笠間)	地域の方々との触れ合いを通して、豊かな心や社会性を育むとともに、幼稚園に対する理解を得る。	政策的事業	地域の方との交流会 絵本の読み聞かせ サッカー教室	回	7 16 4	7 16 1	7 16 2	-	-	-	-	2
9	保健安全管理事業(笠間)	幼児一人一人の健康管理に努め、安全で楽しく遊べる保育環境を整備する。	維持管理事業	怪我の発生件数	件	3	2	1	市単	584	347	328	7
10	稲田幼稚園保育事業	地域の特性や幼児の実態を基に、いろいろな人・物・自然と触れ合う体験を通して、幼児期における道徳性の芽生えを培うなど豊かな心の育成を図る。	政策的事業	行事を通して幼児の成長が見られたと思う保護者の割合	%	79	83	87	市単	285	240	287	1
11	幼児教育研修事務(稲田)	健康で心豊かな幼児の育成のために、教育内容の充実に努めるとともに、研修・研究会等に参加し、教師の資質向上を図る。	政策的事業	研修・研究会等延参加人数	人	29	30	30	市単	18	14	23	11
12	稲田幼稚園PTA事業	保護者と幼稚園が協力して、幼児の健全な成長を図る。 家庭教育学級の開催3回 各種行事への協力と参加	政策的事業	家庭教育学級延参加人数	人	146	132	128	-	-	-	-	3
13	地域との交流事業(稲田)	地域の方々との温かな触れ合いを通して、保育活動の理解や協力を図り、幼児の豊かな心を育む。	政策的事業	地域の方との交流会 絵本の読み聞かせ サッカー教室	回	9 9 2	8 8 2	9 9 3	-	-	-	-	2
14	保健安全管理事業(稲田)	幼児の健康管理や、安全で楽しく遊べる保育環境を整備する。	維持管理事業	怪我の発生件数	件	0	1	2	市単	352	260	315	7
15	障害児教育事業	市内の幼稚園・保育所(園)に在園している3・4・5歳児で、ことば及び情緒に何らかの心配や不安のある幼児に対して個別指導を行っている。	政策的事業	通級回数	回	430	445	530	市単	78	58	58	6
16	幼児演劇鑑賞会事業	市内の就学前の子どもを対象に年1回の演劇会を企画し、生の演劇に触れる機会を設ける。	政策的事業	参加人数	人	898	178	932	市単	467	288	289	5
17													
18													
事業費合計										96,298	101,670	144,972	

シート1 施策構成事務事業目的直結度評価

施策名 幼児教育



法定受託事務(義務的事業に分類) 私立幼稚園特別支援教育費補助金事務

事務事業の成果基準の説明
